広島大学附属三原学校園研究紀要　第２集　2012　pp. 210-217

家　庭　科

特別活動と効果的な関連をはかった中学校技術・家庭科（家庭分野）の題材開発

—幼児とのふれあい体験学習—

藤　井　志　保

１，はじめに

平成20年1月の中央教育審議会による学習指導要領の改善に関する答申において，少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていない状況に対応するための教育の充実が挙げられている。具体的な改善の基本方針として，技術・家庭科においては，「家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する」ことや「実践的・体験的な学習活動そして問題解決的な学習をより一層重視する」ことが示されている。

それを踏まえて平成 24 年度から実施される中学校学習指導要領技術・家庭　家庭分野においては，社会の変化への対応として，「幼児とのふれあい体験を重視すること」や履修方法として「生活の課題と実践」に関する指導事項も設定され，計画，実践，評価，改善という一連の学習活動を重視し問題解決的な学習を進めることとなった[1)]。

また，同様に中学校特別活動の学習指導要領の改善の基本方針では，特に「よりより人間関係を築く力の育成を重視する」ことが挙げられている。そして，子どもたちが自分に自信が持てず，人間関係に不安を感じていたり，好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりすることが課題であると述べられている[2)]。

これらの課題を克服するためには，人と人とがかかわる活動を積極的に取り入れ，実際に実践を通して感じたり，単に実践に終わるだけでなく，その活動を通じて，気付いたりしたことを振り返り，言葉でまとめたり発表し合ったりする活動が効果的である。

こうした状況を踏まえ，昨年度地域の高齢の方との交流学習を総合的な学習の時間，道徳の時間と関連付けて，総合単元として取り組んだ流れを生かし，今年度は，幼児とのふれあい体験学習を特別活動と関連付けて取り組むこととした。

２，本研究のめざすもの

筆者は昨年度までに「地域の高齢の方との交流学習」の取り組みにおいて，家庭科という教科の目標を超え学ぶべき要素がたくさんあると考え，家庭科で身につけた知識や技能などを生かし，総合的な学習の時間および道徳と関連させて，題材開発を行った。

その結果，子どもたちには，人と人とのかかわりをはじめ，物事を見通して計画実践することや，高齢の方とのふれあい方，また誰かのために何かをして相手の喜びが自分の喜びにもつながるような経験をさせることができた。

そこで今年度も，家庭科の時間に，幼児の心身の発達について基礎的・基本的な知識を学び，それを生かし，幼児とのふれあい体験学習に取り組む流れを作った。幼児とのふれあいについては，総合的な学習の時間と関連づけた。

その中で，幼児とのおやつ作りについては，特別活動でも取扱い，次の表１のように家庭科との総合単元として実施した。

このように他教科とも関連をもたせ，家庭科の内容を発展させ，学んだ知識や技能をテーマ解決の手段として用いて，他者と協同的に取り組みながら活用することで，より効果的に自分の実生活

に生きてはたらく力に高めることができると考えている[3)]。

本稿では，「幼児とのふれあい体験学習～幼児と共におやつを作ろう～」について，家庭科で学んだことを特別活動など他教科との関連をはかることでどのような相乗効果が得られつつあるか，その題材開発の試みについて報告し，それに取り組んだ子どもたちの変容を述べる。

表１　家庭科の「幼児のふれあい体験学習」と総合的な学習の時間及び特別活動との関連を図った学習の流れ

家庭科(16時間)	総合的な学習の時間　特別活動　課外活動	
・自分の幼児期を振り返ろう ペア幼児さんとの出会い ・幼児の心身の発達について学ぼう① ・幼児の生活と遊びを知ろう① ・幼児とふれあおう 幼児さんへビデオレターを送ろう 運動会の踊りとメッセージを届ける	・どんな運動会にするかその問いを考えよう。 ・自分たちが小学生だった時の取り組みを振り返り,8年生としての自覚を持とう。	特活
	・運動会の幼小中合同種目「お兄さんとお姉さんといっしょ」の演技内容を考えよう。	総合
	・運動会の踊りの練習をしよう(8年生)	特活
	・運動会の踊りの練習をしよう(4年生へ教える)	特活
・幼児の心身の発達について学ぼう② 幼児さんとの踊りの様子から学ぼう	・運動会の踊りを幼稚園さんと楽しく覚えよう	特活
・幼児の食生活について学ぼう 幼児に適したおやつについて調べよう (夏休みの課題)生活の課題と実践	三原学園　幼小中合同運動会本番	特活
	運動会を振り返ろう	特活
	・8年生運動会実行委員が踊りを創る。 ・4年生との連携　小物などの準備	時間外
・生活の課題と実践の手順にそって計画しよう おやつの試し作りをしよう	・どんなおやつパーティーにするかその問いを考えよう	特活
・試し作りを振り返り本番の準備をしよう ・幼児の生活と遊びを知ろう② ～幼児のための絵本作りに向けて～	改善点を話し合い 幼児さんとのふれあいを大切に	総合
幼児さんと共におやつを作ろう	幼児さんとのふれあいから学んだ事を交流しよう	特活
・幼児にとってどんなおやつが適しているか おやつパーティーを振り返りながら学ぼう	・おやつパーティーの準備をする。 ・幼稚園の先生と連携をとる。	時間外

３，三原学校園と家庭科でのふれあい体験学習

本学校園は，同敷地内に幼稚園・小学校・中学校がある幼小中一貫教育校で「人と人とのかかわり」「人間関係力」などをキーワードに，異校種，異学年交流が盛んである。幼稚園と小学校で，あるいは小学校の異学年で「年長児と４年」「１年と５年」というようにペア学年がある。それは，小学校と中学校でも「３年と７年(中１)」「４年と８年（中２）」と続き，行事などを中心に交流活動を行っている。つまり多くの子どもが，幼児期，児童期に年上の子どもや中学生との交流経験を持つ。

三原学校園の一番の大きな行事は幼小中合同大運動会である。入場行進では，園児と中学生が手をつないで入場するところから始まる。また，幼小中合同であることを象徴する種目に「お兄さんとお姉さんといっしょ」という園児・小学校４年・中学校8年が一緒に踊る種目もある。これは，中学校8年が，自分たちの力で園児が笑顔で踊れるような踊りを一から作り，４年生に教え，さらに園児に教え，共に踊るというものである。

このような環境で子どもたちが育っているということが，中学校８年生（中学校２年生）の家庭科で学ぶ幼児についての学習を支えている。

４，授業の実際（家庭科）

1)　幼児との出会いのふれあい体験実施計画より

①はじめに

幼児の心身の成長発達について学んでいるが，その学習を実践的・体験的に深めるために附属幼稚園の４歳児とペアを組み，１年間で４～５回交流する。そのふれあいを通じて，幼児の成長を感じ取り，自分より幼い子へのかかわり方を学ぶ。

またこの体験を通じて，「自分の幼いころ」を振り返り，自分も家族や多くの人々に支えられ成長してきたことに気付き，これからの生き方を見つめるきっかけとなるようにする。

②出会いのふれあい体験学習の目標

・ペア幼児の名前を笑顔で呼び，１年間ペアとして一緒に遊ぶことを伝える。

・幼児の行動や特徴（表情・ことば・あそび・周囲の仲間とのかかわり）を観察する。

・幼児が安心して遊べるようなかかわり方を考え，

応答的にコミュニケーションをとる。

③日時　時間　９時30分～10時00分

2011年５月12日（木）さくら組と８年２組

５月13日（金）すみれ組と８年１組

④日程

１時間目　被服室で事前学習

２時間目　９:20中学校玄関前へ移動→９:30 園庭へ集合（係からあいさつ）→ペア幼児と対面（自己紹介）→写真撮影→園庭か部屋で遊ぶ→10:00園庭へ集合（幼児と言葉を交わしあいさつ）→10:10被服室集合 ふり返り

⑤今後の主な取り組みの予定

・ペア幼児へのメッセージカード作りをする。

・６月の運動会では，ペア幼児と演技をする。

・幼児のための絵本を作る。

・幼児のためのおやつ作りをする。

2)　幼児とのふれあい体験の事前学習

ペア幼児との出会いに向けて，適切なかかわり方を考えることと，幼児の基本的生活習慣がどのようにして身につくのかを理解することを目標として取り組んだ。

この学習において，創造的思考力を生かす手立てとしては，幼児との出会いのふれあい方について，「小集団で具体的な考えを出し合い，実際に役割演技を行って，クラス全体へ提案しその内容を交流しあう」ことで課題解決させていった。

ここでは課題解決した２つの場面を紹介する。

場面Ⅰ：幼児との出会いの場面での接し方

出会った時にどのように幼児に接するとよいか個人の考えを書き，班で交流した。それをクラスで交流し，理由も考えさせた。その後，その場面を幼児役と中学生役になって演じ，考えた意見を行動化できるようにした。

場面Ⅱ：幼児の基本的生活習慣の形成について

生徒に，幼児が踊っている映像を見せ「幼児はなぜ踊れるようになったのか」を生活習慣の習得とも重ねて考えさせた。生徒からは「真似たから」「幼児も練習したから」という声が出た。そして基本的生活習慣とは何かを理解させた上で，幼児が自分でしようとして失敗する場面を設定し，大人がどんな言葉をかければよいか，幼児が一人でできる環境をどう整えたらよいかという視点で考えさせた。そして，それを役割演技で班ごとに発表させた。クラスにより反応は様々であったが，生徒が提案した一例を示す（表２）。

表２　基本的生活習慣習得ための環境の整え方について生徒が発案した内容

生徒が設定した場面	かかわり方	環境（周囲の状態や準備）
コップで飲もうとするがこぼす	叱らないで丁寧に教える	ストローを準備
衣服を裏のまま着る 袖を通せない	袖をトンネルに例え楽しく教える	幼児が着やすい服にする
うがいができず飲み込む	実際にやって示す	持ちやすいコップの準備
ボタンの掛け違え	励ましながら教える	大きめのボタンにしてボタンの穴を大きくする
なかなか寝付けない	絵本の読み聞かせ 子守唄を歌う	メリーをつけて目で追い音楽も聞けるように
一人で食事をしようとしてこぼす	励ましながら教える	食べこぼしをキャッチできるエプロンの準備

このように事前学習を行い，ペア幼児との出会いの日がやってきた。当日は，緊張しているものの，多くの生徒が幼児の目線になって笑顔で話しかけていた。さらに，なかなか心を開こうとしない幼児にも，その様子をそばで見守って待つことができた生徒もいた（図１）。

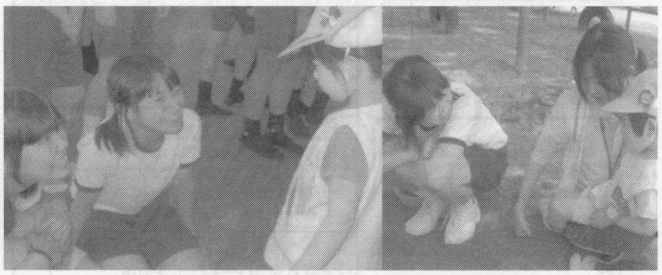


図１　幼児との出会いの日の様子

５，幼児のためのおやつ作りの取り組み

1)　本題材のめざすもの

夏休み前にふれあってから，３か月ほどふれあう活動は行っていない。その中で，今度は「幼児の食生活」について学び，幼児に適したおやつを８年生がグループ（４～５人）ごとに考え，一緒に作って食べるというおやつ作りを計画した。「どんなおやつが幼児に適しているか。」「どんなおやつなら幼児と共に楽しく作れるか。」「どんな盛り付けにすると楽しめるか。」そして，「どのように幼児とかかわるとよいか。」など幼児の立

場になって考える『問い』がたくさんあった。

この活動を，主に家庭科では幼児の食生活やおやつの内容（材料・栄養・作り方など）おやつの意義そして，幼児の心身の発達の特徴とも関連させて学んだ。また，食を通じて，子どもに何をはぐくむことができるのか，「家庭や家族の役割」にも目を向けて考えさせた。

また，幼児とどうかかわるかだけではなく，幼児が楽しく安心して活動できる環境を創るために中学生同士のかかわりあいはどうあるべきなのかを特別活動の時間にクラスみんなで振り返る時間を設けた。そのことで，人とかかわることの大切さや，集団の中での自分の役割を理解しその責任を果たすことの意味についても学ぶ。

2)　この活動を通じて身につけることのできる力

・幼児の食生活について理解を深め，おやつの意義を考える。

・おやつ作りについて，幼児ができることを考え，共に楽しく安全に衛生的に調理することができる。

・幼児の立場になって，気持ちを言葉や行動に表し，より人間関係を深めることができる。

・中学生同士が，お互い創造的にアイディアを出し合い，協力することによって課題を解決できるように取り組む。班で課題を設定→計画を立案→試し作り→本番に向けて改善→本番→実践を交流し学び合う→評価・改善し見直す→新しい課題に挑戦する

・おやつ作りで幼児のために行動することを通じて，自分も家族をはじめこれまで多くの人に支えられて成長してきたことに気付く。

・子どもにとって，食生活は生活の基本であり，その中で人は精神的安らぎを得たり，家族関係をより深められるものであることに気が付く。

・幼児とのおやつ作りの振り返りの時間を大切にする。幼児とのふれあいから「人との関係を作るときに大切なこと」について，意見交流をして，学校生活や家庭生活，そして社会生活にも必要な人と人とがかかわる時に大切なことについて考えるようにする。

3)　取り組みの過程

幼児の心身の発達について学び，幼児と出会い，運動会などを通じて交流を重ねた。そして，夏休み前に，幼児の食生活の特徴について学び，その知識をもとに，夏休みに幼児に適したおやつ作りに取り組んだ。そして休み明けには，その課題を交流し感想を述べ合う時間をとった。

子どもたちは，お互い感想を述べ合いながら，楽しく交流することが出来た。中には，実際に幼児に食べてもらい，その様子をレポートしているもの，いりこを使いカルシウム摂取を意識したもの，盛り付けにこだわったり，魚の形のクッキーを釣るような設定にしているものなど色々な工夫やアイディアが見られた。（図２）

また，スイートポテトや蒸しパンなど，おやつとして定番のものもあり，幼児に適したおやつについて，多くのアイディアを交流できた。

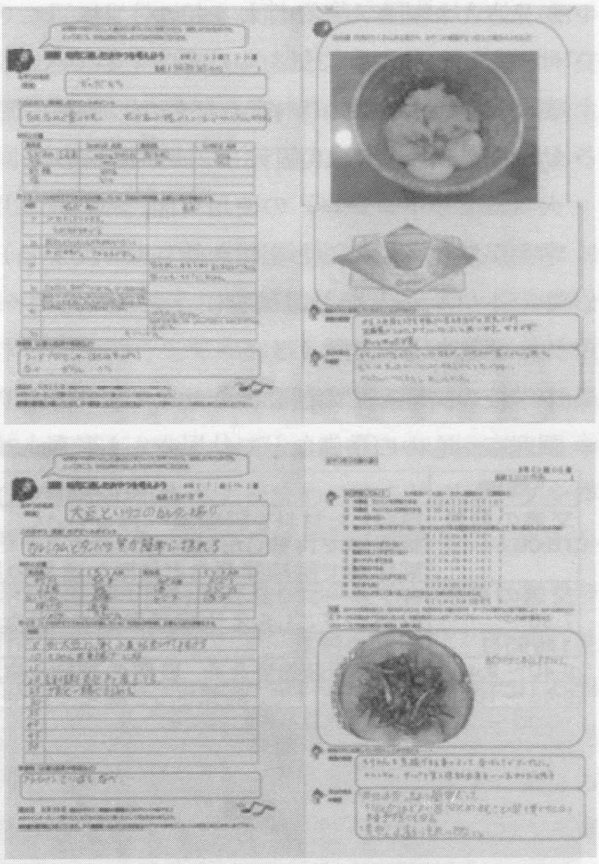


図２　夏休みに考えてきた幼児向けのおやつ

その後，夏休みに考えてきたアイディアを参考にして，各班で幼児向けのおやつ作りは何にするのかという話し合いを行った。その時に，幼児に適しているというだけでなく，特に重点

を置いて考えたことは，幼児と共に作ることができるということだった。また，中学生には，幼稚園の先生方との話し合いで，幼児さんの視点に立って幼稚園の先生が話されたことを伝えおやつを何にするかを話し合う時の条件とした。

4）幼稚園の先生方との連携の中で

この活動には，幼稚園の先生方との連携が欠かせなかった。幼稚園の先生方と話し合った中で，幼児さんも役割があり，幼児自身も目標を持つ必要があるということを聞き，その目標を次のように設定した。

・お兄さんお姉さんとのおやつ作りを通して、一緒におやつを作る楽しさ味わう。
・お兄さんお姉さんと一緒におやつを楽しく食べることができる。
・お手伝いをすることで、自分にもできるんだという気持ちを持つ。
・お兄さんお姉さんへの憧れを持つ。
・けがをしないように気をつけることができる。

また，環境面では次の内容も打ち合わせをした。

・幼稚園の遊戯室へ10個テーブルが出せる。
・火（カセットコンロ）の使用可能。（ただし中学生が幼児さんのことを目を離さないで見る）
・ホットプレートなど電気を使うものは，ブレーカーが落ちる可能性がある。
・中学校の調理室での活動はさせない。中学校の調理室へものの準備などで幼児さんも移動して，何かを共に運ぶだけならいい。（お手伝いをして物事の準備にもかかわった方がいい）

これらの条件を考慮して，表３のように活動することとし，この状況の中で計画を立案させた。

各クラス10のグループがあり，生徒たちが考えたおやつの内容は次の通りである。

班	8年1組	8年2組
1	まきこめフルーツクレープ	ずんだ餡を使った白玉団子
2	クレープちゃんとクレープ君	炊飯器で作るオレンジ・リンゴケーキ
3	ほくほくポテト	くまちゃんホットケーキ
4	ホットくん	ビックリボール～何が出るかな～
5	お絵かきホットどら焼き	白・オレンジ・緑のカラフル団子
6	カラフルパンケーキ	まきまきケーキ
7	白玉フルーツポンチ	しゅわしゅわクラッシュゼリー
8	マロンスイートポテト	まるまるもちもち団子
9	かぼちゃのフレークボール	ヒーローホットケーキ
10	色々な味の蒸しパン	ふっくらおいしい蒸しパン

表４　幼児と共におやつを作ろう　各班で考えたおやつ

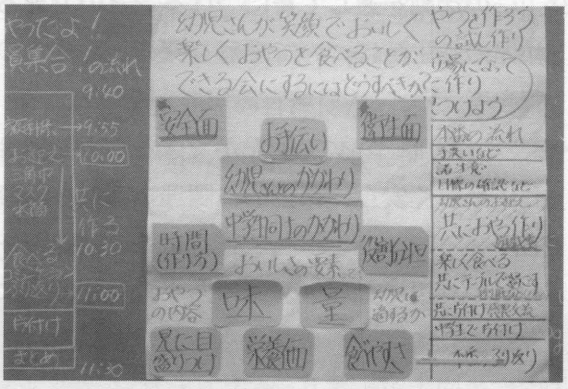


図３　おやつのおいしさの要素

また図３のように，おやつのおいしさの要素を示し，これらの視点を持って取り組ませた。

本番では，各班で協力して幼児にかかわる姿

時間	生徒の動き	場所	係や教師の動き　備考など
交流の前日 16:00～	持参した材料を調理室へ持っていく 調理室で持参した材料を計量する 調理室で調理器具など必要な道具の準備をする	中学校 調理室	遊戯室の準備
交流の当日 7:30～	各グループで必要な材料の準備 材料の下ごしらえや調理器具を洗うなど	中学校 調理室	必要に応じて遊戯室の準備
1時間目	通常の授業	各教室	
9:40～9:45	集合　服装を整える　目標の確認と諸注意など	調理室	みんなに目標など伝える
9:45～10:00	中学生だけで，幼児さんを迎えておやつを作る準備	調理室	10グループが入らない場合小学校の調理室を借りる
10:00～	ペア幼児さんをお迎えに行く 幼児さんが服装を整えるのを手伝う　手洗い 安全面と衛生面にも気をつけながらおやつ作り 卓上のカセットコンロなどを使ってできる工夫をする 調理室では台が高いので共に作業は無理 共におやつ作りを行い，配膳もする	さくらすみれの部屋 ↓ 遊戯室へ	係が先に行って幼児さん全員へおやつ作りのことを話しておく グループごとに写真撮影
10:30～ 30分間	おやつパーティー（仮称）を始める グループで楽しく食べながら交流する	幼稚園 遊戯室	中学生（係）からのあいさつ 幼児さんからのあいさつ
11:00 11:05～	おやつパーティー（仮称）を終わり 片づけ（机の上のことはできる範囲で幼児さんと一緒に） 中学生が最後は責任を持って片づける	幼稚園 遊戯室 中学校 調理室	幼児さんからのふりかえり 中学生からのふりかえり 中学生からのあいさつ 先生から

表３　「幼児と共におやつを作ろう」の準備と本番の流れ

が見られた。（図４・５）

図４　幼児と共に団子を丸めている様子

図５　幼児をサポートし調理している様子

６，授業の実際（特別活動）

本番を終えて，「幼児とのふれあいで学んだこと」というタイトルで幼児とのおやつ作りを振り返る授業を実施した。

○　この授業における人間関係力育成のポイント

幼児とのふれあい体験の時のお互いの良いところを見つけあう活動を通じて，「幼児とのかかわり」を支える「同級生同士のかかわり」に目を向けさせ，自己肯定感を高める。そして集団の一員としてより良い人間関係を築くために，自分に何ができるのかを考え，これからの生き方を考えるきっかけとなるようにする。

○　単元設定の背景

家庭科の幼児についての学習では幼い頃を振り返り，家族をはじめ多くの人に支えられて今の自分があることに気付くことをめざしている。この自分が大切にされた経験こそが「自己肯定感」の土台である。本単元は，年間通じて取り組む「幼児とのかかわり」の第３次として設定した。幼児とのふれあい体験を振り返るだけでなく，同級生同士のつながりに目を向けさせた。お互いの良いところを見つけ自己肯定感を高め，「人と人との関係を作る時に大切なこと」は何かを見つめさせ，それがこれからどう生きるかの問いにつながるようにした。

○　生徒観

８年生では「時間を大切に自分を大切に人を大切に」を昨年から学級・学年目標として掲げ，お互いを支えあい認めあい高まっていける集団をめざしている。しかし，本学校園では，幼児期からほとんど構成メンバーが変わらないため，人間関係が固定化したり，仲間に対しても決めつけた見方をしている場合もある。また，自分に自信が持てず，気持ちをおさえて周囲に合わせて生活したり，反対に仲は良いが，言動に配慮がなく，相手の立場に立ち切れていない実態もある。異学年交流は継続的に行ってはいるが学んだことを同級生同士の人間関係に生かし切れていない実態もある。

○　指導観

子どもたちの人間関係力は，あらゆる活動において育まれるが，本単元は，特別活動・総合的な学習の時間そして家庭科と関連づけて横断的に取り組み，また次にあげる点に留意することで効果的な指導ができると考えた。①１年間継続した学びになるようにペアを決め，さらにグループを作りペアとのかかわりだけでなく同級生同士のかかわりを意識させる。②活動の計画段階からおやつ作りのカードやワークシートに幼児とのかかわりや同級生とのかかわりでいいところを見つける内容を盛り込む。③幼稚園の先生とも連携し，幼児や中学生同士のかかわりを異校種の複数の教師の視点で見守るようにする。④幼児とふれあう写真を見て，本番では気が付くことのできなかった幼児の表情に気が付いたり，自分自身だけでなく，クラスの仲間がふれあう様子をプラスの視点から見つける機会を設ける。

○　本時の目標

仲間の良いところを見つけあい交流する活動を通じて，①自己肯定感を高め，今後の生活の中で，お互いが認め合って，自分の役割を果たしながら，②より良い人間関係を築いていこうとする意欲を高める。

○　授業の流れ

生徒の活動	教師の働きかけとねらい
①本時の学習課題を自分自身で設定する。	「おやつ作りで見つけた仲間のいいところを交流し・・・」まで示し考えさせる。
②おやつ作りを写真で振り返る。 気付いた様子をメモする。	「幼児とのかかわり」「同級生同士のかかわり」2つの視点で見させる。
③仲間の頑張っていたところを相手に伝えて班で交流する	前時に出し合っていたプリントを参考に，声に出して相手に伝えさせるようにする。
④班で交流した内容を，クラスでさらに交流する。	一人ひとりの良さを，クラスみんなで共有させるようにする。
⑤どんな思いでそのような行動をとったのかを考え，発表させる。	頑張っていた行動には，その人の思いがあるのでその気持ちに気付くことができるようにさせる。
⑥今日の授業を通して，どんな気持ちになったか感じたことを書いて発表する。	書いたことを交流させる。はじめに示した目標と照らし合わせて発表させる。

○　授業後の生徒の感想より

上記の本時の目標に照らし合わせ，「①自己肯定感②より良い人間関係への意欲」について記述している部分に印を記入してみた。一例として，生徒が書いたワークシートも示す。（図６・７）

【ワークシートの記述より一部抜粋】

・あまり考えずに行動していた所も，①みんなは良い所として受けとめてくれていてとてもうれしかった。みんな幼児さんのために色々な工夫をしていてすごいと思った。

・今日はいろんな人の頑張っていた所を聞いて自分以外の人が色々な事を頑張ってこの会が成功しているんだなと思った。①自分なりに頑張っていたことが，他の人からほめられたりしてすごく嬉しかったし，自分もすごいと思うところがあったので②真似できたらいいなと思う。

・みんなの頑張りがもっと分かって，その人の気持ちも分かった。意外に思う行動もあり，面白かった。７年の交流会のことを生かせたこともあると思う。例えば幼児に自ら話しかけて，退屈そうだったら折り紙をいっしょに折るなどもできていたので，今回はいい会になったと思う。

・自分の班に集中していたけど，改めて全体の様子を知ることができた。一番に思ったのはみんな小さい子に優しいことだ。普段から小さい子が苦手だと言っている人もいざとなればちゃんと行動できて，優しさを見せることができるんだと思った。②この経験を，普段人とかかわるときも出せたらすごく良いと思う。

・班のメンバーの良い所を出し合い交流した。そして「どのような思いでこんな行動をとったのか」さらに深く考えた。行動には意図がしっかりあり，幼児さんが安全で楽しめるおやつ作りにつながっていると思った。当たり前の事でも「幼児さんを優先して考えること」が定着しているのは良いことだと思った。幼児だけでなく，仲間とも深くかかわれた会だったと思います。

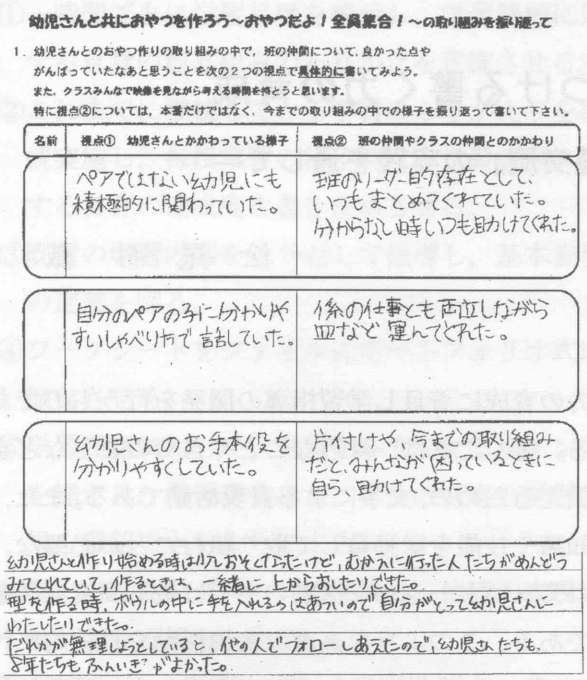
・本番では，自分の役割を果たすのに一生懸命で，他の人に目がいってなかった。でもみんながどうだったとか他の人から自分がどうだったとか交流し合ってみると，①みんな（自分を含む）のことがだんだんわかってくるような気がしてきた。O君の発表を今回したけど他の人ももっと良い所がたくさんあったと思う。幼児との交流会で，②幼児さんの事だけでなく人とのコミュニケーション能力もできてきたんじゃないかと思う。何しろ今回は色々なことを学べたし楽しかった。大成功だったと思う。今回学べたことを次に生かしていけたらいいなと思った。

・②自分たちは幼稚園から同じ人たちと過ごしているので，もっと他の人や今と違う人と関わったほうがいい。

・おやつ作りを通して，さりげない気配りや役立つことをしたり，成功への鍵だと思いました。これを生活の中に取り入れ，他の事でも生かしていければいいなと思いました。誰にでも丁寧な対応をすることが最も良いことだと改めて感じました。

・私は普通に行動しているだけだと思っていたけど，①班の人たちはちゃんと見てくれていたんだと思い嬉しくなった。他の班の人たちのを聞いてすごいなあ周りを見てくれているなあと思った。いつもと違うことをするとその人の新しい一面が見れて面白い。

・②みんな「いつもとは違って・・・幼児さんに優しかった」とか言っていたけど，それができるということは，その力がもともとあるのに使ってないだけなのがもったいないなと思いました。



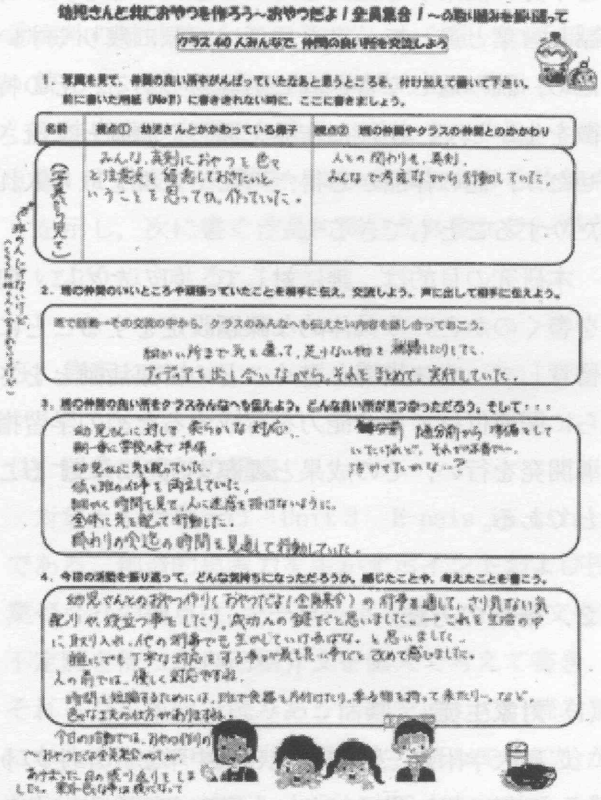
幼児さんと共におやつを作ろう～おやつだよ！全員集合！～の取り組みを振り返って

1．幼児さんとのおやつ作りの取り組みの中で，班の仲間について，良かった点やがんばっていたなあと思うことを次の２つの視点で具体的に書いてみよう。
また，クラスみんなで映像を見ながら考える時間を持とうと思います。
特に視点②については，本番だけではなく，今までの取り組みの中での様子を振り返って書いて下さい。

名前	視点① 幼児さんとかかわっている様子	視点② 班の仲間やクラスの仲間とのかかわり
	ペアではない幼児にも積極的に関わっていた。	班のリーダー的存在として、いつもまとめてくれていた。分からない時いつも助けてくれた。
	自分のペアの子に分かりやすいしゃべり方で話していた。	係の仕事とも両立しながら皿など運んでくれた。
	幼児さんのお手本役を分かりやすくしていた。	片付けや、今までの取り組みだと、みんなが困っているときに自ら、助けてくれた。

幼児さんと作り始める時は少しおそくなったけど，むかえに行った人たちがめんどうみてくれていて，作るときは，一緒に上からおさえたりできた。
型を作る時，ボウルの中に手を入れるのはあついので自分がとって幼児さんにわたしたりできた。
だれかが無理しようとしていると，他の人でフォローしあえたので，幼児さんたちも，3年たちもみんいきがよかった。

図６　班の仲間の様子について書いたもの



幼児さんと共におやつを作ろう～おやつだよ！全員集合！～の取り組みを振り返って

クラス40人みんなで，仲間の良い所を交流しよう

1．写真を見て，仲間の良い所やがんばっていたなあと思うところを，付け加えて書いて下さい。
前に書いた用紙（No.1）に書ききれない時に，ここに書きましょう。

名前	視点① 幼児さんとかかわっている様子	視点② 班の仲間やクラスの仲間とのかかわり
（写真から見て）	みんな，真剣におやつを色々と注意点を観察しておきたいということを思って，作っていた。	人との関わりも，真剣，みんなで考えながら行動していた。

2．班の仲間のいいところや頑張っていたことを相手に伝え，交流しよう。声に出して相手に伝えよう。

班で話合ったその交流の中から，クラスのみんなへも伝えたい内容を話し合っておこう。
細かい所まで気を配って，足りない物を補足したりもした。
アイデアを出し合いながら，それを手伝って，実行していた。

3．班の仲間の良い所をクラスみんなへも伝えよう。どんな良い所が見つかっただろう。そして・・・

幼児さんに対して，柔らかいな対応。
前一番に学校へ来て準備。
幼児さんに気を配っていた。
低い班の仲間を同まていた。
細かく時間を見て，人に迷惑を掛けないように。
全体に気を配って行動した。
終わりが食べる時間を見通して行動していた。

自分達から準備をしていたけれど，それが本当かー。
活かせたかなー？

4．今日の活動を振り返って，どんな気持ちになっただろうか。感じたことや，考えたことを書こう。

幼児さんとのおやつ作り（おやつだよ！全員集合）の行事を通して，さり気ない気配りや，役立つ事をしたり，成功への鍵だと思いました。一つ一つを生活の中に取り入れ，他の行事でも生かしていけたらな。と思いました。
難しくても丁寧な対応をする事が最も良い事だと改めて感じました。
人の前では，優しく対応できた。
時間を効率するためには，班で役割を分担したり，準備物を持って来たり。など，色々な工夫の仕方があります。
今回の活動では，おやつ作りの～おやつだよ全員集合～ver.
あがった品の感り合いをしました。楽しい気持ちになれて

図７　写真を見て交流した後の感想を書いたもの

７．おわりに

実践例の子どもたちの姿や授業後の感想からも，昨年度に引き続き家庭科の時間の取り組みを特別活動と関連させて取り組んだことにより，より子どもたちの学びが深まったといえる。

まず一つ目に，家庭科で身に付けた幼児の食生活に関する知識・技能を生かしそれを発揮する場を設定したことで，学んだ知識を実生活に生かせるという実感を伴った経験ができた。また，昨年度の地域の方との交流学習の経験を生かせたという声もあり，学びを積み上げることができた。これは家庭科で身に付けた知識や技能がより高次で確かなものになり「生きる力」を育むことにつながっている。

二つ目に，人とかかわる力は学校生活のあらゆる活動において育まれる。その中でも特に，家庭科では幼児・高齢者など他者とかかわる力を重視している。このたびは，特別活動などと関連付け，教科で学んだ知識を土台として，相手の心情に触れる活動を行うことで，より思いやりを持ちながら人とかかわる力を育むことにつながった。

最後に，今年度の取り組みのキーワードは「自己肯定感」である。家庭科で幼児について学ぶ視点から考えると，自己肯定感は幼いころからの家庭での家族のかかわりがその基盤になる。その家庭の機能をも学びながら，特別活動でお互いの良さを認め合う活動を取り入れることで，子どもたちは自分の幼い頃を振り返ったり，幼児とかかわる楽しさや一人ひとりを認めることの意味を再認識する。その中で自分も仲間から認められることにより自己肯定感が高まり，より他者への思いやりを育むことができる。

以上のことからも，家庭科と特別活動などの他教科との関連をはかることで，子どもが教室での学びを実生活の中でも生かし，思いやりを持って他者と豊かにかかわり合いながら生活実践力を高めていけると考える。

＜参考および引用文献＞

1）文部科学省：「中学校学習指導要領解説技術・家庭科編」，2009.7，教育図書.
2）文部科学省：「中学校学習指導要領解説特別活動編」，2009.7，教育出版.
3）文部科学省：「今，求められる力を高める総合的な学習時間の展開」，2010.11.